

「成人病と妊娠分娩産褥における異常及びリスクファクターとの関連に関する研究」

分担研究：女性の健康から見た母子保健のあり方に関する研究
東京大学

研究協力者 上 妻 志 郎

要約：本研究の目的は、保健所において実施されている成人病健診を受診した中年女性を対象に妊娠分娩に関するアンケート調査を行い、成人病検査で異常と判定された群における妊娠分娩歴の特徴を明らかにすることである。

本年度は（１）東京都中野区と墨田区の保健所を訪問し、実施している健康診断とその実績の調査ならびに本研究のアンケート調査実施の可能性についての検討を行い、アンケート調査の対象とその形式に関する方針を決定した。（２）妊娠分娩歴に関するアンケート用紙の作成を試みた。

その結果、東京都墨田区における誕生日健診では、成人病に関する各種臨床検査と成人病のリスクファクターに対する問診が行われており、受診者数は年間1000名を超えることが予想されるため、本研究の目的に沿ったアンケート調査が可能であると思われた。アンケート調査の趣旨の理解やプライバシーの保護、回答内容の信頼性、時間的・空間的制約等の観点から受診者にアンケート用紙を配布し、自宅で記入したうえで返送してもらう形式が、妥当なものであると思われた。アンケート用紙は、回収率を高めるため簡潔なものにし、出産回数、流産回数、胎児の発育、早産の有無、妊娠中の入院の有無、妊娠中毒症の有無、体重の変化を主要な質問事項とした。

見出し語：成人病、リスクファクター、妊娠分娩

研究方法：（１）東京都中野区と墨田区の保健所を訪問し、実施されている成人病関連の健診につき調査し、本研究において行われるアンケート調査が可能であるかにつき検討した。（２）次年度のアンケート調査に備えて妊娠分娩に関するアンケート用紙を作成した。

結果：（１）中野区では一般の成人病健診は診療所や病院において行われており、受診者が数多くの施設に分散されているため、確実性の高いアンケート調査は困難であると思われた。中野区の保健所においては骨検査が積極的に行われていたが、受診者が高齢者である場合が多く、妊娠分娩以外の多くのファクターが入り込んでくる可能性が高く適当でないと判断された。また、一般成人病に関しては問診が行われるのみであるので、既往歴として明らかなもののみが抽出されることになり、成人病を有する群の対象者数が充分得られないことが予測された。

墨田区においては、35—55才の住民を対象に誕生日健診が行われている。成人病検査項目は、身長、体重、肥満度、胸部X線、尿検査（蛋白・糖・潜血）、血圧、心電図、眼底検査、歯科検査、血液検査（白血球数・赤血球数・色素量・ヘマトクリット・総コレステロール・HDL・中性脂肪・GOT・GPT・ γ -GTP・クレアチニン・尿酸）である。成人病に関する問診項目は、既往歴として高血圧、心臓病（心筋梗塞、狭心症等）、脳卒中、糖尿病、腎臓病、痛風、貧血、肝臓病、高脂血症、高コレステロール血症、結核、その他の有無について、最近1年間の自覚症状として、手足のしびれ、めまい、耳鳴り、ふらつき、胸のしめつけ感、息切れ、動悸、脈の乱れ、顔・足がむくむ、よくのどが渇く、よく咳・痰がでる、痰に血が混じることがある、その他の有無について、生活習慣として、たばこ、お酒、睡眠時間、労働時間、運動、朝食、間食、ジュース類の有無についてである。平成7年度の5月から12月までの向島保健所における誕生日健診受診者数は、受診券発行者数4573名中836名で、そのうち女性は578名であった。そのうち、要医療と判定された女性は89名であった。

以上の点から、墨田区の誕生日健診は検査項目・問

診項目ともに充実しており、受診者数も本所保健所を合わせると、1000名を超えることが予想されるため、本研究の目的に沿ったアンケート調査が可能であると考えられた。

一般住民が本アンケート調査の対象であるため、その趣旨に対する住民の理解とプライバシーの保護が重要がある。したがって、多くの検査と問診が同時に行われるため、健診会場でのアンケート調査は時間的な観点から適当ではないと考えられる。また、あらかじめアンケート用紙を受診券発行者に送付し、健診当日に回収する方法は、実際の受診者数の約5倍のアンケート用紙の送付が必要となること、また健診当日に持参することを忘れる例も相当数予想されるため、効率的とは言いがたい。そこで今回のアンケート調査は、受診者にアンケート用紙を健診会場で配布し、自宅に記入した後に返送するという形式をとることが適当と思われた。

(2) アンケート用紙は以下のように、調査の趣旨を説明する依頼文からはじまり、その後に妊娠分娩に関する質問項目を加えた。

アンケート用紙

本日は誕生日健診ご苦労様でした。

成人病の発生は、ストレス・喫煙・食習慣・運動不足などの生活習慣と関連しているといわれておりますが、妊娠や出産との関係についてはあまり調べられてはおりません。

妊娠や出産は女性のからだに大きな変化をもたらすものであり、そのときのお母さんのからだの変化や赤ちゃんの発育などが、将来の成人病の発生と関係がある可能性があります。もしそうであれば、妊娠や出産をした時点から注意することにより、将来の成人病の発生を予防することが出来るかもしれません。

このアンケート調査の目的は、成人病と妊娠とがどのような関係にあるのかを調べることです。私どもは、女性を成人病から守るための重要な調査であると考えております。

お忙しいところ誠に恐縮でございますが、以下の質問にお答えいただき、同封の封筒を用いてご返送下さいますようお願い申し上げます。

なお、このアンケートは厚生省の研究班により作成されたもので、これ以外の目的で使用されることは絶対にありません。

アンケート用紙の最後に余白がございますので、更年期障害などの健康一般につきご相談がある場合にはご自由にお書き下さい。出来るだけお役に立ちたいと考えております。

厚生省心身障害研究「妊娠分娩産褥と成人病」

東京大学産科婦人科学教室 上妻志郎

電話 3815-5411 (内線) 3407

FAX 3816-2017

このアンケート調査では妊娠や出産についてご質問させていただいておりますが、妊娠の中絶や子宮外妊娠などは除いて、お答え下さい。設問には該当する所に○印をつけるか、()内にお書き込み下さい。

- 1 妊娠回数 () 回
- 2 出産回数 () 回
- 3 流産回数 () 回

以下、妊娠出産の経験がある方のみお答え下さい。出来れば、母子手帳で確認して下さい。

- 4 妊娠の時の年齢は何歳でしたか その妊娠は流産でしたか出産でしたか

出産の場合は妊娠何週で、赤ちゃんは何グラムでしたか

- 1回目 () 才、(流産・出産 (週、 g))
- 2回目 () 才、(流産・出産 (週、 g))
- 3回目 () 才、(流産・出産 (週、 g))
- 4回目 () 才、(流産・出産 (週、 g))
- それ以降 () 才、(流産・出産 (週、 g))
- () 才、(流産・出産 (週、 g))
- () 才、(流産・出産 (週、 g))

- 5 妊娠前から現在まで続いている病気がありますか

・はい ()
・いいえ

以下の質問は出産までの妊娠中の異常に関するものです。出産した場合についてのみお答え下さい

6 妊娠中に、出産以外で入院したことがありましたか

・はい

入院の理由は何でしたか、それは何回目の出産の時でしたか

理由

○つわり (1回目、2回目、3回目、その他 () 回目)

○切迫早産 (1回目、2回目、3回目、その他 () 回目)

○妊娠中毒症 (1回目、2回目、3回目、その他 () 回目)

○双子 (1回目、2回目、3回目、その他 () 回目)

○その他 () :

(1回目、2回目、3回目、その他 () 回目)

・いいえ

7 妊娠中毒症があった場合に以下のような症状がありましたか それは何回目の出産の時でしたか

○からだ全体がむくんだ

・はい (1回目、2回目、3回目、その他 () 回目)

・いいえ

○血圧が高くなった

・はい (1回目、2回目、3回目、その他 () 回目)

・いいえ

○尿に蛋白がでた

・はい (1回目、2回目、3回目、その他 () 回目)

・いいえ

8 妊娠初期の体重はどのくらいでしたか(出産した場合のみ)

1回目 () Kg、2回目 () Kg、3回目 () Kg、4回目 () Kg

9. 妊娠全期間を通じてどのくらい体重が増えましたか

1回目 () Kg、2回目 () Kg、3回目 () Kg、4回目 () Kg

10 出産後体重は元に戻りましたか

1回目：ほぼ元通り

減少はしたが元には戻らず
体重は増加したままだった

2回目：ほぼ元通り

減少はしたが元には戻らず
体重は増加したままだった

3回目：ほぼ元通り

減少はしたが元には戻らず
体重は増加したままだった

4回目：ほぼ元通り

減少はしたが元には戻らず
体重は増加したままだった

それ以降：ほぼ元通り

減少はしたが元には戻らず
体重は増加したままだった

お名前

ご住所

ご協力ありがとうございました。

ご相談がありましたら、お書き下さい。

考察:成人病の発生と妊娠分娩歴との関連については、2通りの可能性が考えられる。第1は、妊娠分娩が女性の身体、特に心血管系に変化を生じさせ、その変化が成人病発生の病態と関連を持つというものである。その例として、Nessらは多産婦で冠動脈疾患の発症頻度が高くなることを報告している⁽¹⁾。第2の可能性は、成人病発生ハイリスク群に対し妊娠分娩が一種のストレステストとして作用し、妊娠分娩に関する何らかの異常を呈しやすくなるというものである。

Winkeistein の、自然流産の回数と冠動脈疾患の発症との関連を示す報告はこの一例であろう⁽²⁾。

本研究と平行して、既に成人病を発症している或いは発症したことのある女性に対する妊娠分娩に関するアンケート調査が東京女子医科大学産婦人科において行われている。本年度の研究により、高齢者が多いこと、対象者数に限りがあることなどの問題点も指摘されている。本研究は広く一般住民において行われる成人病健診において抽出される成人病予備群に対してアンケート調査を行うものであり、成人病検査の異常と実際の発症との間にはギャップが存在するものの、対象者数や年齢の点からは、成果が期待される。

最後に、本研究の実施にあたりご協力いただきました東京都中野区中野保健所 浦野純子所長・日置則子先生、墨田区向島保健所 岩井榮一所長・河野弘子先生に深く感謝します。

文献：

- (1) Ness RB et al. New Engl J Med 1993; 328: 1528
- (2) Winkelstein W. J Clin Epidemiol 1995; 48: 500



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:本研究の目的は、保健所において実施されている成人病健診を受診した中年女性を対象に妊娠分娩に関するアンケート調査を行い、成人病検査で異常と判定された群における妊娠分娩歴の特徴を明らかにすることである。

本年度は(1)東京都中野区と墨田区の保健所を訪問し、実施している健康診断とその実績の調査ならびに本研究のアンケート調査実施の可能性についての検討を行い、アンケート調査の対象とその形式に関する方針を決定した。(2)妊娠分娩歴に関するアンケート用紙の作成を試みた。

その結果、東京都墨田区における誕生日健診では、成人病に関する各種臨床検査と成人病のリスクファクターに対する問診が行われており、受診者数は年間 1000 名を超えることが予想されるため、本研究の目的に沿ったアンケート調査が可能であると思われた。アンケート調査の趣旨の理解やプライバシーの保護、回答内容の信頼性、時間的・空間的制約等の観点から受診者にアンケート用紙を配布し、自宅で記入したうえで返送してもらう形式が、妥当なものであると思われた。アンケート用紙は、回収率を高めるため簡潔なものにし、出産回数、流産回数、胎児の発育、早産の有無、妊娠中の入院の有無、妊娠中毒症の有無、体重の変化を主要な質問事項とした。